

会 議 録

会議の名称	令和2年度第4回富士見市社会教育委員会議
開催日時	令和2年11月24日（火）午後7時00分～8時45分
開催場所	中央図書館 視聴覚ホール
出席者	搦木道代議長、吉田廣子委員、荒川照子委員、京谷恵子委員、佐々木眞理子委員、古澤立巳委員、吉田徹子委員、蘇武伸吾委員、米山隆二委員、堀川博基委員 事務局
欠席者	なし
公開・非公開	公開（傍聴人 0人）
会議次第	1 協議事項 ・地域子ども教室について
会議資料	定期刊行物
会議録確認	搦木道代議長

会議内容

1. 開会

○議長あいさつ

2. 協議事項

【議長】委員のみなさんに提出いただいた宿題について、事務局にそれぞれ意見をまとめてもらった。また、提言書の構成案についても出してもらった。担い手の問題、保護者との関わり、学校との関わり、子どものニーズ、それぞれで出た意見をその中で分類した形になるが、「この意見はこちらの方が適切だ」ということがあればご指摘いただきたい。まずは提言書の構成案について、意見があれば伺いたい。問題ないようであればこのまま進める。

【委員】問題ない。

【議長】校正で挙げられた「2、問題の所在」について、事務局に確認したい。この部分については、社会教育委員会議では触れていない部分になるかと思うが、事務局に任せてよいという事か。

【事務局】この部分については、第2回目の会議で事務局から出した資料で触れた部分になる。提言書として、あった方がわかりやすいと考えたため入れた。その部分については、委員が構わないのであれば事務局で用意する。

【議長】承知した。では次に「3、課題の検討」について。ここに宿題で各委員から出してもらった意見を入れ込んでいく形になる。まずは「(1) 担い手の確保」について、事務局による分類で問題ないか、言いたかったことと相違ないか、確認してほしい。

【委員】問題ない。

【議長】6番で挙げられている意見について、「運営方針」で分類されているが、人材不足について焦点を当て挙げた意見である。「行政が運営を担ってくれば」という文が入ってはいるが、これについては2つの意見として分けたほうがよいか。事務局側はこの意見をどう受け取ったのか。

【事務局】分類に迷ったところではある。議長のおっしゃる通り、人材不足について焦点を当てた意見だとは思いますが、構成を考えた上でこの分類となった。意見を2つに分けていただくというのも手だとは思いますが。

【議長】そもそもの大きなテーマが担い手の部分なので、大きな分類としては間違っていないとは思いますが。では次に「(2) 学校との関わり」について、各自確認していただきたい。なにか問題等あるか。

【委員】問題ない。

【議長】分類の順番について、5番に「その他」が入ってきているが、この順番に意味はあるのか。

【事務局】暫定的な並びであり、特に意味はない。

【議長】では次に「(3) 保護者の理解」について、なにか意見はあるか。

【委員】問題ない。

【議長】分類の並び順について気にかかる。出し方については後々考えていくのか。

【事務局】そのように考えている。

【議長】では次に「(4) 子どものための『子ども教室』」について、なにか意見は

あるか。

【委員】問題ない。

【議長】では最後に「(5) その他」について。

【事務局】「(5) その他」について、かなり具体的な意見をいただいております、他の意見とは一つにまとめなかった。「4、提言」の部分については、「(5) その他」で出た意見と、この具体的な意見を核に組み立てられればと考えている。

【議長】どのような形でまとめていくのが良いか、ご意見があれば委員に伺いたい。今回の資料はあくまで事務局がまとめた状態にすぎない。意見としてはほぼ出きったと考えているので、提言書としてのまとめ方を考えていきたい。まとめてもらった意見も、同じ内容であれば更にまとめていく必要があると思う。一つの文章にまとめるか、箇条書きでまとめるのも方法だとは思いますが。また、これまでの提言書では、グラフや図など、視覚的に訴えるものをいれていた。今回は、数値等は取っていないので難しいと思うが、視覚的にもわかりやすい形にしていけたらよいかと思う。

【委員】具体的意見については、どう扱っていくのか。どこかに入れ込めるような意見ではなく、独立した提案として出していくものではないかと思う。

【議長】提言書の最後の方に、具体的な提案として出していくのが良いのかと思う。

【委員】志木市のように事業を民間業者等に委託することは、いきなりは難しいと伺った。私自身は水谷東地区の子ども教室に携わっていたが、市内の子ども教室には、平日保護者会の時に開催する見守り型と、土日に開催するイベント型がある。こうした、様々な形態で子ども教室を実施している状況下で、全教室を委託・直営等、一律で方針を決めるのは難しいことだと思う。地域への委託では運営しきれないとなった時に行政に入ってもらって、徐々にその教室のその後の方針を決めていくのが良いのではないかと。今の保護者に聞けば、必ずニーズはあると思う。保護者会時でなくとも、子どもを預かってくれるのであれば助かるという保護者は多い。しかし担い手を考えた時に課題がある。子どもと関わるのは楽しくて好きだという人は多い。しかし代表であったり、コーディネーターであったり、責任が伴うこととなると、尻込みしてしまって「できない」と言われてしまう。したがって、まずは市の直営として行政に運営してもらい、ボランティアということなら人は集まると思うので、地域に協力を仰ぎながら子ども教室を続けていくのが良いのではないかと考える。

【議長】事務局の子ども教室担当と打合せをしていると、行政の助け・介入を必要としている教室もあれば、また一方で地域の力で十分運営していけるという教室、両方があるということが分かる。このような状況を鑑みると、それぞれの教室にあわせて、臨機応変に対応できるような行政の体制づくりが必要なのではないかと思う。しかし提言書として柱を設定するとなると、どこに据えるべきか。「行政がどうするか」ということを提言するために、何を提言の柱とするべきか。その柱は一つに絞った方が良いのか。

【委員】先程言われた通り、確かに運営が立ち行かなくなっている教室もある事と思うが、一方でうまくいっている教室もあるのだから、一律で「こうすべし」と考えるのではなく、地域で運営できるところは地域に委託し、できないところについては行政が入るといって、段階的なかかわり方が良いので

はないか。どの教室へは行政が入るべきで、どの教室は委託にすべきというのは、個々の教室の事情が分からないので、これ以上は踏み込んで議論できないと考える。

【委員】宿題を提出する際、様式から外れた形で提出させていただいた。その理由は、この会議の場で求められていることが、現状を打破するための具体的な提言だと考えたためである。個々の課題を掘り下げたところで、理解はできても解決にはつながらない。「提言」と言う以上、具体的な方策が求められるのではないか。ただ、それぞれの教室が考えている問題意識や課題は、教室間で一致していない。各教室の現状を社会教育委員は把握していない。それを知る必要があるのではないか。一方で、個々の状況は考えないで、「こういう形もある」という提言をするのも一つの方法だと考える。

【委員】子ども教室を委託することのメリット・デメリットと、直営で運営することのメリット・デメリットが分からない。予算的な問題なのか、地域の人材という観点の問題なのか。

【事務局】委託のメリットとしては、地域の力で子どもたちに多様な体験活動の機会を提供することができる、という点が挙げられると思う。保護者でもなく学校の先生でもなく、いわゆる「第三の大人」が子ども教室を運営することで、子どもたちが地域とふれあい、郷土愛を深めながら、様々な経験をすることができるという事が、最大のメリットであると考えます。直営のメリットとしては、行政職員が運営するわけであるから、安定的に継続していくことができる。そこがメリットではないかと思う。

【委員】人材がいるのであれば、地域でやるのがもちろん望ましい。

【議長】人材確保の点からいえば、どの組織も同じであるが、ボランティアは確保できても、責任が伴うとなると、人材が見つからないというのが現状。立上げ当初は何とか確保できた人材も、現代においては難しくなってしまう。行き詰ってしまった原因が、すべて教室側にあるわけではなく、行政側に責任があると考えます。端的に言ってしまうと、行政には、様々な状況に対応できる柔軟な体制を作ってほしいと思っている。もっと行政がかかわることができていたら、教室の負担感ももう少し軽減できていたのではないかと思う。

【事務局】教室の状況に合わせ、地域で担いきれなくなったときに行政がどう関与するべきか、という観点から議論を深め、提言書としてまとめていければよいのではないかと思う。

【議長】委員の意見も聞きたい。委託、直営という運営方法だけに縛られず、地域での運営が難しくなっている教室に対して、行政がどう関わるべきかという提言をしていければよいか。

【委員】先日、人間地区の社会教育委員会会議に出席した。その場でも子ども教室やコミュスクの話になった。狭山市の事例で、行政が地域に対して研修を行っているという話を聞いた。富士見市では子ども教室を始めた時に、そのようなレクチャーなり研修なりを、各地域に対して行ったのか。研修を行い、地域の理解を得ないと、単なるお手伝いに終わってしまう。お手伝い感覚だと、疲れてしまったときに「もうやめた」と去ってしまう。そうさせないためには、地域全体で目的を共有する必要がある。またそれは地域

に対してのみでなく、学校に対しても必要。

【事務局】 子ども教室を立ち上げる際、各地域に対して事業の目的や趣旨の説明会は行っている。現在は、連絡協議会において、年1回研修会を実施している。ただしその内容は、社会教育に対する意識の改革を促すようなものではなく、実践的なものが主なものとなっている。

【委員】 単なるお手伝い感覚だと長続きしない。またボランティアにしても、楽しんでもらうことが大切。大学の先生などをお呼びして、地域が関わることの意義など、根本的な研修を行っていくことが重要だと考える。

【委員】 水谷地区ではもともと別事業で実施していた「土曜日道場」が子ども教室へと形を変え現在に至った。根本的な考え方が、保護者会時の見守りを主としている教室とは全く異なる。水谷のスタッフの方たちには、その方たちなりの意識があり、子どもたちもその考えのもと子ども教室に参加してきている。したがって、他の教室と同じように一律にしていくことは難しいと考える。宿題の「5、その他」の中の、7番の意見にあるように、やりたいと思ってやっているのかどうか、確認も必要ではないかと思った。続けていかなければならないという前提の下でやってくださっているのであれば、そこは行政が手助けしなくてはならないところなのではないかと思う。個々に対応していく必要がある。また先に研修についての話があったが、子ども教室を担ってくださっている人たちだけではなく、それ以外の人たちに向けて、広く研修や説明会を行っていく必要があるのではないか。そうした上で、人が集まるかどうか見ていかななくてはならない。人が集まらなかった場合は、行政が理解を得られるよう地域に働きかけていかなければ続かないのではないかと思う。

【委員】 教室ごとに始まった経緯や母体が異なるので、確かに一律にやっていくことは難しいと思う。

【委員】 南畑地区の代表に話を聞いていると、「地域愛」を強く感じる。南畑地域をより良くするため、また子どもたちのために、できることを考えている。引退は考えていないようだが、やはり高齢化については課題意識がある様子である。

【事務局】 委員の意見を聞いていると、地域で運営できる場所は地域に任せ、担いきれないという地域に対しては、行政が運営に入るといった形が良いのかもしれないと感じた。また行政が運営に係る場合、広報や地域理解の重要性についてもかなりご意見をいただいております、子ども教室担当としては勉強になった。また各地域の力でここまで続けてきた子ども教室であるから、その培ってきた地域性は残したいと思う。委員の意見も踏まえると、提言書としてはその方向性でまとめていくのが良いのではないかと思う。

【委員】 課題が多岐にわたるので難しい問題だと思う。運営についていってしまえば、予算をつけて民間企業等に委託してしまえばできることだと思う。それもひとつの方法だと思うが、今まで地域で培ってきたものがあるので、併用という形もあると思う。具体的な方策については、この会議の場で話すのではなく、より詳しい人に任せの方が良い。私たちにできることは、次の世代でも続けていけるように提言し、行政に対して同じ轍を踏ませないようにすることだと思う。また、今まで地域でうまく運営出来てきたか、

改めてクローズアップする必要があるのではないかと思う。

【委員】 社会教育委員という立場を考えると、社会教育の本質として、すべての地域の人に事業の本質を理解してもらえよう、周知に努めることが重要だと考える。運営していく上での課題については、子ども教室の必要性をすべての人に理解してもらったうえで考えていくべきこと。運営している人しか知らない、一部の人しか存在を認知していない、というのは、社会教育としては弱い。富士見市の社会教育の一環として行っていくのであれば、活動を知ってもらう必要がある。今まで出た、周知が必要、という話だが、そこが社会教育に当たる部分なのだと思う。運営していく上での課題は、いろいろな立場や見方があるので、専門的な方に聞いた方がよい。また人材を確保するといっても、誰でもいいわけではない。全く力にならない人に関わってもらうよりも、少しでも力になってくれる方、理解がある方に、少しでも関わっていただいた方がよい。そういうことを考えると、社会教育の価値は大きい。子ども教室の意義や、多くの人にメリットがあるという事を分かってもらえるような周知を行う、それが社会教育だと考える。具体的な取組については連絡協議会で研修等を通じて深めるもので、この場で必要なのは課題解決に向けてのステップを踏むこと。今後を見通したときに課題が出てくるので、それを解決するために、子ども教室の存在意義を多くの人に分かってもらい、支援してくれる人を増やしていくという、方策よりも内容の面を発信していくのが、社会教育として適していると考ええる。

【委員】 各教室のスタッフの方々の本音を聞いてみたい。継続していききたいのか、もう辞めたいのか、世代交代したいのか。各教室の状況や実態によって異なると思う。各教室の運営主体の人たちの本音や課題意識を知りたい。

【委員】 各教室の現状等に係る調査等は行っていないのか。

【事務局】 調査としては行っていない。連絡協議会や各教室の会議で聞き取る程度。

【委員】 行政としては、今ある教室をもとにして進んでいきたいと考えているのか。

【事務局】 そのように考えている。

【委員】 立上げ当初から係わってきて、スタッフ、子どもたち、ともに年齢を超えた交流を持てたことに大きな意義を感じている。子ども教室に参加した子が、保護者以外の地域の大人と顔見知りになり、中学生になってから一緒に防災訓練をするなど、地域のつながりを築いてきた。東っ子くらぶは、「子どもは地域全体で育てる」という考えのもと始まった。地域の協議会で密に情報共有をしてきたし、埼玉県で事例として取り上げられたりもした。しかし、私の次のお母さんたち世代になってから、かかわりが薄くなり、協力が得にくくなってきた。保護者アンケートや説明会はもちろん、学校の先生方への説明も行った。お手紙も月1回のペースで出したし、保護者、サポーター、先生方と密に連携をとってきた。そこまでやっても、若いお母さんたちに「ボランティアだったんですか」「お金貰ってないんですか」と言われてしまった。PTAにも、「PTAではできない」と言われていたが、今の会長が理解をして下さり、また校長先生にも、今のお母さんたちが子ども教室を必要としているのか、一旦考えてもらおうという事で、お休みすることになった。休止してしまったものの、地域が一体とな

って運営していくこの形を、崩したくない。サポーターとして関わっていきたくと思うし、地域にもそういう人は多い。富士見市全体で見てもそういう人は多いと思う。連絡協議会で報告した時に、他の教室の方が東っ子くらぶだけの問題ではなく、いつか自分たちの教室も直面する問題だとおっしゃっていた。だから行政としてこの問題を考えてほしいという話だった。多くの方にバックアップしてもらいながら力を尽くしてきたが、休止せざるを得なかったという状況は理解してほしい。

【議長】直接携わったことはないが、託児の色が濃い所と、体験活動が主なところと、二極化しているように感じる。託児であれば保護者のニーズは高い。しかしイベント型のところに親が興味を持つかという、現実問題として難しいと思う。行政に対して危機感を投げかけるような提言にしていけたらよいのかなと思う。休止せざるを得ないという教室がこれ以上でないような体制づくりを促す、そういう提言書が良いかと考える。先に話に出たが、各教室のスタッフにアンケートを取った方が良いか。

【委員】行政に提言するものなので、数値的根拠は必要と考える。そのため、アンケートは取っておきたい。また今年度はコロナウイルスの影響があるので、今年度だけの実施だと、特殊な数値になってしまう可能性がある。今年度だけでなく継続的な実態調査が必要だと考える。

【議長】では、現在携わってくださっているスタッフの方に、意識調査を行うという方向で進める。なにを聞き取るか。

【委員】行政に何を求めるか聞いてみたい。各教室が抱えている課題について、解決するために行政に求めることはなにか。

【委員】行き詰まりを感じているか、聞いてみたい。

【委員】スタッフとして活動を続けている理由も聞きたい。子どもが好きという理由なのか、やめるわけにはいかないという義務感からなのか。

【委員】課題のひとつとして、広報不足が挙げられると考える。したがって、効果的な周知の方法を考えるためにも、子ども教室のスタッフに携わるようになったきっかけを伺いたい。

【議長】では以上の点について、事務局には次回会議までに調査を進めてもらう。スタッフのみなさんに了解を得られるようなら、提言書に盛り込み、より実態に寄り添った提言書にしていければ。

3. その他

○特になし

次回会議日程

令和2年度第5回会議

日程：令和2年12月21日（月）午後7時～

場所：中央図書館 視聴覚ホール

4. 閉会